

血液疾患を見逃すな

盛合 亮介

札幌医科大学附属病院 検査部

血液検査室から臨床への検査結果を含む情報提供は、血液疾患の診断、治療効果判定、経過観察などに役立っており、日々診療に貢献している。特に、血液検査を担当する臨床検査技師の重要な仕事の一つとして、白血病などの血液疾患を「見つける」・「見落とさない」・「見逃さない」ことが挙げられる。

血液疾患が疑われる場合、CBC・末梢血液像検査が有用な検査であることは言うまでもない。例えば、血液内科を受診した急性白血病疑い症例では、CBC検査所見は白血球著増、貧血、血小板減少を呈することが多い。また、末梢血液像検査では自動血球分析装置から異常細胞を示唆するメッセージが出現し、鏡検法でも異常細胞が多く認められる。このような典型的な急性白血病症例を「見つける」ことは容易であり、「見落とす・見逃す」可能性は低い。

しかし、急性白血病症例では典型的所見を呈する症例ばかりではなく、白血球数が軽度増加にとどまる症例や、末梢血への異常細胞出現率の少ない症例も存在する。悪性リンパ腫においても、末梢血に異常細胞が少数しか出現しない症例もあり、自動血球分析装置から異常細胞を示唆するメッセージが出現しないこともある。また、CBC・末梢血液像検査は、血液疾患の診断目的以外にスクリーニング検査としても広く用いられており、血液内科以外の多くの診療科から依頼がある検査項目である。これら全ての依頼検体（患者）から血液疾患を「見つける」・「見落とさない」・「見逃さない」ためには、CBC検査所見に加え、自動血球分析装置からの情報や生化学検査所見などを参考にすることが効果的である。また、自施設で用いている自動血球分析装置の特性を理解しておくことも重要である。

本講演では血液検査の初心者～中級者向けに、いくつかの症例を提示しながら、血液疾患の検査所見のポイントなどを解説する。提示症例の検査所見を共有することで、今後の日常業務において、血液疾患を「見つける」・「見落とさない」・「見逃さない」ことに繋がれば幸いである。

連絡先：011-611-2111（内線：36440）